白河の冥奇

第　８０　号
令和６年３月３１日
発行人：支部長　栗林正樹
※題字：白川仁一先生
※印刷：さとう総合印刷

「愛別離苦」

西白河副支部長　鈴木　且雪

令和６年は、元旦に発生した能登半島地震により、多くの犠牲者を出すという最悪のスタートとなってしまった。一瞬にして愛する家族や親族、親しい仲間などを亡くしてしまった方々は、どれだけ大きな悲しみや苦しみを持ったことだろうか。仕事の都合で一人だけ一日遅れで帰郷した結果、自分だけが助かり、先に実家に戻った妻や子どもたち、そして、親族のすべてを亡くしてしまい、呆然と立ち尽くしている男性の姿が、テレビの映像で伝えられた。被災地の悲痛すぎる現状は、同じような体験を持つ人たちには、自分のことのように受け止めることができるものだろう。愛する家族や愛するものを、突然失ったとき、人は大きな悲しさを味わい、生きる希望を失うほどの苦しみを受ける。自分も同じような経験が何度かあるので、自分のことのように共感できる部分が多くある。

自分のこれまでの人生において、最初に味わった愛別離苦は、次女を亡くしたことだ。長女が生まれてから６年が経過してから次女は生まれた。生まれたとき、全身に発疹ができており、とりあげてくれた産婦人科の先生は、親に見せる前に知り合いの皮膚科の先生に診てもらい、状況を確認してくれた。発疹の原因は「ヘルペス」の一種で、赤ん坊の健康に大きな影響を与えるものではないという説明を聞き、安心したことが思い出される。その後、成長具合が良好とはいえず、妻は新生児の検診のたびに、保健婦さんから嬉しくない助言を頂くことが多かった。それでも段々に大きくなり、「いないいないばあ」にケラケラと笑うようにもなってくれた。しかし、生後１０ヶ月経過したときに、天に召されてしまった。自分の腕の中で息を引き取った。夫婦して泣いた。なぜ、もっとしてあげられることがあったのにしなかったのか。忙しさに逃げて、親としての義務を十分に果たさなかった自分を責めまくった。苦しさに苛まされた。けれども、人は忘れるという特性をもらっている。時間の経過と共に、その時の痛みや悲しみは癒えていく。もしも、人に忘れるという力がなかったら、生きていくことはできないかもしれない。

自分のその後の人生において、受け取った悲しみや苦しみの大きさの違いはあるが、数多くの別れがあった。身内だけではなく、親しい友人や仲間も逝ってしまった。中には病気や事故ではない要因でこの世を去った者もいた。このときの別れには、言いようのない悔しさと怒りを感じた。死ななければならないほどの苦しさがあったのであれば、仕事を辞めることは何のためらいもいらないと思っている。両親も他界してしまった。父も母も介護の世話になることなく、元気で長生きした方だが、やはり高齢者は急に弱ってしまい、まだまだ生きてくれるだろうという願いは叶わず、去って行った。親の死はある意味順番にあったものなので、我が子の時に受けたものよりは大きくはなかったが、やはり悲しくさみしく苦しかった。人は生まれたからには必ず死ぬ。自分が死を迎えるまでに、まだいくつかの別れがあるだろうが、家族では自分が一番年かさなので、家族との別れはあって欲しくない。自分の番が来たとき、残された家族やその他の人たちは、私の死を悲しんだり悔やんだりしてくれるだろうか。死後、それを確かめることはできるのだろうか。

《おめでとうございます》

この度、佐川文夫先生と菊地順雄先生が全国連合退職校長会より「賀詞」（満８８歳）を受けられました。菊地先生は併せて、瑞宝双光章（叙勲）を受章されております。
心からお祝い申し上げます。

「佐川文夫先生米寿 誠におめでとうございます」

栗林　正樹

佐川文夫先生の米寿のお祝いを、申し上げることができることは誠に光栄であります。

佐川先生は昭和５９年塙町立那倉小学校長にご昇任され、翌年には僻地教育研究会の授業を公開し、参観者は「若い先生方が地域の特色を生かしたいい授業だった」と評し、那倉小の先生方も子供達も日ごろの成果を示すことができ喜んでくれました。これらの成果が認められ、県南教育事務所指導主事、管理主事・業務次長兼管理課長を務められました。

佐川先生が業務次長兼管理課長をなさっていた時、私は指導主事を拝命し1年間ご一緒させて頂きました。

担当の新採研の進行を務め「教育次長からご挨拶申し上げます」と言い、全て終わった後、佐川先生にお礼に伺ったところ「いやあ、教育次長の挨拶？と言われ一瞬戸惑いましたよ。」とおっしゃられ、いつもの穏やか表情で先生は叱ることもなく笑っておられました。

また、指導主事は自分の教科外でも授業の指導をしなければなりません。そこで、佐川先生に「教育センターの研修に申し込みをしたいのですが」と話しますと。「指導主事は自分の専門外の教科はしっかり勉強して指導するのです。先輩によく聞いてみて下さい。」と、いつもの丁寧な言葉遣いでおっしゃいました。

翌年、佐川先生は白河第一小学校の校長にご栄転されました。定年後は私達の退職校長会に入会され、陰に陽にご指導頂いて参りました。同時に白河市中央公民館に1年余務め、表郷村教育長を４年お勤めになりました。平成１８年には春の叙勲を受けておられます。

私はやっと喜寿となりましたが、後１１年大丈夫か自信がありません。佐川先生の生き方に学び、私も健康長寿を目指して米寿を迎えられるよう努力したいと思っています。

佐川文夫先生がさらなる卒寿・白寿・上寿を健康に迎えられますようお祈りしております。

「菊地順雄先生米寿・瑞宝双光章受章 誠におめでとうございます」

嘉成　靖

栄えある瑞宝双光章ご受章を心よりお祝い申し上げます。長年のたゆまぬ努力が報いられお慶びもひとしおのことと存じます。

菊地校長先生とご一緒させていただいたのは、塙町立高城小学校でした。３０年近く前のことになります。当時は、若い教員が多く、私もその一人でした。そんな若い教員の授業を参観されたり、頑張って活動している様子を見て声をかけてくださったりと、いつもニコニコと素敵な笑顔で見守り明るく接してくださいました。高城小学校教員が年齢の枠を超えて一つにまとまっていたのは、菊地校長先生の人柄の表れだと思います。

児童への指導では、丁寧な接し方で常に優しいまなざしを注いでおられました。特に、気持ちの優しい児童へのサポートは見事でした。また、児童の未来を考えボランティアの大切さを伝えていました。今では災害が発生すると当たり前のようにボランティアの方の協力がありますが、当時はボランティアという言葉が広まりつつある程度でした。ボランティア活動は、「主体性」「福祉性」「無報酬」で行われる活動であり、今後の日本、世界の中の日本を築き上げていくためには大切な活動であることを子どもたちに説明されました。

学校と家庭との連携では、菊地校長先生の人柄により、学校、家庭、地域が一体となった教育が展開されていました。当時の高城地区の保護者は大変協力的であり、馬力がありました。学校行事の度にＰＴＡが中心となって、慰労会が開かれました。校長先生が保護者の方と楽しそうにお酒を酌み交わす姿が思い出としてあります。高城地区の名物のヤマメ骨酒や松茸がずらりと並んだことを菊地校長先生も思い出されるのではないかと思います。

最後になりましたが、菊地校長先生にはこれからも健康に留意され、今後ますますのご活躍をご祈念申し上げます。

「あらためて感謝の日々を」

～小学校教育功労者に対する文部科学大臣感謝状～

菅野　由信

その連絡は、昨年の７月末、白河市教委からの電話でした。「感謝状の件で…」ということでしたが、私には思い当たることがないので、後日、担当の方からお話をいただいたところ、内容は、「小学校教育功労者に対する文部科学大臣感謝状」の授与ということでした。

昨年の１０月１９日、東京国際フォーラムにおいて、全国連合小学校長会の７５周年記念式典の席上で感謝状を授与されました。文科大臣よりの感謝状受領者は全国で４７１名、県内からは８名でした。この感謝状受領については２５年に一度行われる全連小創設の記念式典の年にあわせて実施されているものでした。前回は５０周年記念式典で、次回は１００周年ということになるようで、このような貴重な機会に感謝状をいただくという身に余る巡り合わせに恐縮しています。

あらためて思い起こせば３８年の教員生活を最後まで小学校で全うできたことは、この間に出会い、貴重なご指導をいただいた校長先生や教頭先生、先輩、同僚の先生方のおかげであり、若くて未熟だったころ、多くの間違いや指導力の不足なども温かく見守り、支援してくださった保護者や地域の方々のご支援のおかげでもあります。そして、私を担任として受け入れ、授業や様々な活動をともに乗り越えてきた子どもたちにも助けられました。

おかげさまで、教員生活のそれぞれの機会に、多くの方々に出会い、刺激を受け、教師としての資質を磨くための環境に身を置くことができたことも幸せでした。この機会をお借りして、心より感謝を申し上げます。

奇しくも、全連小創設が自分が生まれた年だったということも知りました。後期高齢者への入り口に立ち、今回の貴重な場に臨む機会をいただいたおかげで、あらためて、自分の教職人生を振り返り、ありがたい出会いの数々を懐かしむことができました。日々、老いを実感することが増えていますが、自分なりに豊かな時を重ねていけるよう過ごしていきたいと思います。

「白河市の社会福祉事業功労者に選ばれて」

薄井幸太郎

この度、市の市政功労者の社会福祉事業功労者で、市の条例に該当した８名の一人として表彰されました。

１１月４日に市庁舎５階で、市長より直接表彰状と記念品が手渡されました。その後全体と市長と一人ずつ写真を撮りました。

私は平成１９年１２月１日に辞令を受け、５期１５年令和４年１１月３０日までの任期でした。信金のイベントホールで令和５年５月２６日市の民生・児童委員会の総会があり、市の民生・児童委員連絡協議会和知会長より厚生労働大臣の表彰状と記念品が手渡されました。更に全国民生・児童委員協議会長からも表彰状と記念品を戴きました。

さて、民生・児童委員の名称は、以前は民生委員でしたが、平成１３年児童福祉法により、児童委員も兼ねることから変更になりました。

仕事としては、地域の様々な理由により、支援を必要とする人たちに対して、常に住民の立場に立って相談・援助を行うと定められています。

実際には毎月１回地区毎に会議を開き、地区の実情を話し合い困っていることは皆で相談し合いました。市の会長会も毎月ありそこで各地区の問題を出し合い、市全体の問題として協議しました。

また、市の社会福祉事業にも協力しました。５月には市の総会、９月には敬老会、１０月には赤い羽根募金、１２月にはあったかサロンとして市の配布物の配布、更には学校の行事への参加等仕事は盛りだくさんでしたが、皆様の温かいご協力で１５年間無事努めることができました。

ありがとうございました。

○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

【クラブ活動の活性化に向けて】

今年度は囲碁とゴルフの二つのクラブになってしまいました。両クラブとも会員募集を随時していますのでいつでもご入会下さい。

なお、新しくクラブを設けることも大歓迎です。余暇時間を有意義に過ごすためにも例えば、写真、里山散策。健康散歩、ふるさと歴史などなど。ご意見等お寄せください。

祝 令和２~５年度瑞宝双光章 叙勲祝賀会

石川　政彦

新型コロナウイルスの流行により延期されておりました叙勲祝賀会が、４年ぶりに開催されました。

１２月１０日（日）、東京第一ホテル新白河で行われた祝賀会には、受章者１８名の内から栗林正樹様、太田雅信様の２名がご出席され、ご来賓として、福島県教育庁県南教育事

務所長　笠原聡美様、福島県市町村教育委員会連絡協議会西白河支会理事長　芳賀祐司様、西白河小中学校長連合協議会長　渡邉泰昌様をお迎えし、総勢４３名の参加者を得て、盛大に祝宴が催されました。乾杯のご発声を、

参加者を代表して金内啓四郎先生が行い、福島俊男退職校長会西白河支部顧問が、万歳三唱で会を締めくくりました。

以下に、１８名の高齢者叙勲者・春秋叙勲者の皆様のご芳名をご紹介いたします。

【令和２年度】４名　藤田好一様　菊地勝雄様
　　増淵弘志様　太田雅信様
【令和３年度】６名　薄井勇一様　平原武男様
　　八巻嘉男様　田村賢一郎様
　　白川仁一様　栗林正樹様
【令和４年度】５名　三瓶俊明様　白坂　昇様
　　石川隆夫様　人見道雄様
　　大森邦恩様
【令和５年度】３名　福田利家様　武藤六郎様
　　金子英昭様

教育界における永年の功績が認められ、晴れて叙勲の栄に浴された１８名の皆様、誠におめでとうございました。

《編集後記》

今年度は総会後の懇親会を除いて計画した行事をほぼ実施することができました。次年度もさらに明るく元気にさわやかな１年になりますように！　広報係